

令和7年度秋田県総合政策審議会 第1回企画部会 議事要旨

1 日時 令和7年5月29日(木) 10時～11時

2 場所 秋田地方総合庁舎6階 総607・608会議室

3 出席者

○ 企画部会委員

辻	良之	秋田県商工会議所連合会会長
伊藤	明子	株式会社ドレッシング・エー代表取締役
吉澤	清良	立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部教授
石田	万梨奈	onozucolor 代表
小泉	ひろみ	一般社団法人秋田県医師会会長
高橋	今日子	東京大学大学院新領域創成科学研究科特別研究員(RPD)

□ 県

笠井	潤	企画振興部長
小松	鋼紀	企画振興部次長
齊藤	大幸	総務部次長
田口	好信	あきた未来創造部次長
高島	知行	観光文化スポーツ部次長
安杖	一	健康福祉部次長
高橋	佐紀子	生活環境部次長
高橋	源悦	農林水産部次長
仲村	陽子	産業労働部次長
佐藤	正美	建設部次長
佐藤	寧	出納局次長
久慈	隆正	教育次長
細川	大輔	警察本部警務部首席参事官兼警務課長
坂本	博紀	企画振興部総合政策課政策監

4 開会

□ 坂本総合政策課政策監

ただいまから令和7年度秋田県総合政策審議会第1回企画部会を開会いた

します。

はじめに、企画振興部長の笠井よりごあいさつ申し上げます。

5 あいさつ

□笠井企画振興部長

本日はお忙しいところ、企画部会に御出席いただき、御礼申し上げます。

現行の「新秋田元気創造プラン」は、推進期間が4年間であり、本年度は最終年度となるため、4月に就任した鈴木知事のもと、来年度からスタートする新たな総合計画を策定する年度になります。

県では「新秋田元気創造プラン」に基づき、本県が抱える様々な課題の解決と県勢の発展に向け、総力を挙げて取り組んできたところでありますが、一方で、最重要課題である人口減少問題の克服をはじめ、産業経済の活性化や防災・減災対策など、これまで以上に、中長期的な視点に立ちながら、本県の明るい未来につながる取組を展開していくことが大切になってくると考えます。

本年度は、新たな総合計画の策定に向けた審議をお願いすることになるため、本日は、今後の審議の進め方などについてご相談させていただきたく、企画部会を開催させていただきました。

皆様から率直な御意見をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

6 委員紹介

□坂本総合政策課政策監

ここで、企画振興部長は所用のため退席させていただきます。

続きまして、出席者名簿に従いまして、本日御出席の委員の皆様を御紹介いたします。

(出席者名簿に基づき紹介)

7 議事

□坂本総合政策課政策監

それでは、ここからの進行は、辻部会長にお願いいたします。

●辻部会長

それでは、次第に沿って進める前に、一言申し添えます。審議内容は、議事録として県のウェブサイトに掲載されます。

その際に、委員名は特に秘匿する必要はないと思いますので、公開で行いたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

御異議ないようですので、議事に入ります。

はじめに、議事(1)の「次期総合計画の策定について」、事務局から説明をお願いします。

□小松企画振興部次長

(資料－１に基づき、次期総合計画の策定の方向性について説明)

●辻部会長

ただいまの御説明につきまして、御意見、御質問はございませんでしょうか。

では、私から質問ですが、マーケティング手法というのは、具体的にどのような形で進めるのでしょうか。

□小松企画振興部次長

基本的に、マーケティングに関する専門家から考え方をアドバイスいただき、事業プロセスをマーケティングの視点から見極めて精度を上げ、さらに成果を上げていこうというものです。そのためには、職員研修や、専門部所を設置する方向で調整しており、そこが基軸となりマーケティング手法で施策を進めていくこととしております。

○高橋委員

１点目として、次期総合計画の本県の目指す姿を「日本一持続可能な県」としていますが、「日本一持続可能な」と言った時に、どのような県の姿を描いているのかということは、総合計画の序段で、きちんと述べていかなければいけないことだと思います。

「日本一」という言葉は多くの自治体がつけたがる傾向にありますが、「日本一」とつけても、住民がそれに違和感をいだくと、計画の信頼性が揺らいでしまいます。決して人口が増加する、人口減少が逡巡していくということが持続可能となるわけではないので、なにをもって「日本一」なのか、どのように

持続可能を捉えているのかというのは、少し丁寧に御議論いただきたいと思います。

次に、「人口社会減『1,000 人台』に縮減」と書いていますが、数字のインパクトはとても強いので、例えば、今現在、社会減が 3,000 人台とすればそこからいつまでに 1,000 人台に持っていきたいと思っているのかということは丁寧に説明しなくてははいけません。総合計画を作成する際は、その点に御留意いただければと思います。

□小松企画振興部次長

1 点目については、委員の皆様との議論の中で、明らかにした上で丁寧に作成してまいります。計画においても、県民に分かりやすいように策定を進めてまいります。

2 点目は、人口社会減を 2,000 人未満にするというもので、1,000 人台というところで整理しております。計画における目標などについては議論した上で明確にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

●辻部会長

今年度は、次期総合計画の策定に関わっていくとのことですが、本計画の策定は、これまでの取組の成果や課題の検証からスタートすることになると思いますので、今回の総合政策審議会及び専門部会において、県政運営上の課題等を踏まえながら、検討を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

次に、議事(2)「令和 7 年度の総合政策審議会の進め方について」、事務局から説明をお願いします。

□小松企画振興部次長

(資料－ 2、3 に基づき、令和 7 年度の総合政策審議会の進め方について説明)

○小泉委員

先ほどの資料とも関わりますが、数値目標については、かなり重く考えていかなければ、上手くいかないと思います。特に医療・健康・福祉に関しては、財務省から医療費の削減、福祉分野への社会保障費の削減が行われており、かなり厳しい状況の中で、これをどう維持していくかが課題です。

そうした場合、専門部会で議論する際に、実行可能な案でいくのか、それともお金がかかるかも知れませんが、思い切った案を出してもいいのか、その辺はどのように考えればいいのでしょうか。

□小松企画振興部次長

財政的制約もありますので、どこまでできるかというのは難しいですが、やはり現状を変えていくためには、ある程度大胆に行っていくことも必要だと思いますので、そこは忌憚なく御議論していただきたいと思っております。

○石田委員

お願いになりますが、昨年度、専門部会における話し合いの仕方を改善いただきました。最初はシンポジウム形式でしたが、専門部会の中で密着した席にしたことで、とても話しやすくなりました。

ただ、県の方々は観覧席という感じもありましたので、県の皆様とより創造的に作っていく、意見を交わしていくという上では、空間づくりや進め方も少し意識していただけると、より良いものになっていくのではないかと思います。

●辻部会長

会議の設営の仕方について、是非、御検討ください。

○吉澤委員

企画部会と「防災・減災・県土強靱化」、「環境・暮らし」のワーキンググループのやりとりについて、詳細を教えてください。

□小松企画振興部次長

「防災・減災・県土強靱化」、「環境・暮らし」については、ワーキンググループで基本的な議論をしていただきますが、専門委員は各3名と少ないので、企画部会の皆様にも、議論内容を提示して御意見をいただければと思います。可能であれば、企画部会の皆様にも御出席いただききたいところですが、そこはなかなか難しいと思いますので、事務局でサポートしながら、企画部会の皆様からも御意見をいただいて、それを反映しながら共に作っていくような形で進めたいと思っております。

○伊藤委員

これからの話だと思いますが、「日本一持続可能な県」という目標があまりにも大きいように感じますが、そのイメージが少しでも私たちに伝わってくる部分はあるのでしょうか。

□小松企画振興部次長

例えば、洋上風力などの豊富な資源を上手く循環させて、県民の生活や雇用につなげ、持続可能性を高めていきたいというような考えを知事からも聞いておりますので、そうした点を我々も考えていきたいと思っておりますし、皆様にも御議論いただければと思っております。

次期総合計画については、ある程度長期的な秋田のあるべき姿を見据えて、4年間で達成する目標を立てていくことになります。イメージについて、皆様に伝わるよう説明していきたいと思っております。

○小泉委員

先ほども、医療は厳しいと申し上げましたが、去年、二次医療圏が三つになりました。次は一つになるのではなく、北東北三県での役割分担などの議論を始めていかなければならないのではないかと考えております。医療・福祉に関して、北東北三県は同じような課題を抱えながら別々に取り組んでおり、三県がそれぞれ考えていく中でも、連携が不可欠になると考えています。

審議会で行うことではないかも知れませんが、例えば、北東北三県のサミットのような、他県との交流といったものがあれば教えてください。

□小松企画振興部次長

過去に北東北三県の知事サミットというものがありましたが、現在は、北海道・東北ブロックの知事会や、会合などで知事同士のつながりがありますので、そうした場で、本県と状況が似ている県などと情報交換していきたいと思っております。

○石田委員

7月3日の審議会や専門部会までに、「日本一持続可能な県」について、仮説としてこういうことをイメージしているという少し解像度が上がったものがあると議論がしやすくなります。方法論を考える前に、どうなったらいいのかというところが大事になりますので、御検討いただければと思います。

□小松企画振興部次長

皆様の議論が進むよう、イメージや例示を準備していきますので、よろしくお願いします。

○高橋委員

「持続可能」について、議論を進めていく上で土台として持っておいた方が

よい視点がありまして、「持続可能」を捉える際には、「環境」だけではなく、「社会」と「経済」を含めた三つの柱や円で表現されることがあり、それらをどう両立していくのかというところが、まず大きな視点として大事になります。

サステナビリティを考える際には、課題や現状を踏まえて、何を大切にしていって、どこにテコ入れするのが効果的かという議論をするのが大事です。例えば、本県の特徴として高齢者が多いので、医療・福祉分野が「社会」の部分の重要な位置を占めるのではないかというのは容易に想像できますが、サステナビリティにおいて大事にしているのは、「世代間の公平性」です。医療・福祉分野については、高齢者だけではなく、子どもや特徴のある方々を含めて、どのような包括的で効果的な医療・福祉サービスを提供できるかといった議論が「世代間の公平性」になり、そこを総合計画の中にしっかり落とし込んでいくことが大切になります。資料－１の図を見ると、色々な内容のものが書かれており、もちろんそれぞれが「環境」・「社会」・「経済」が関わっていますが、とりあえず内容は「環境」・「社会」・「経済」に網羅しているから「持続可能性」に取り組んでいると言っている県が多く見られます。「持続可能性」は、何かを寄せ集めた状態を言っているのではありません。持続可能性を希求していく県政というのは、それぞれの内容がどのように関連していて、各種対策を進めた時に、県がどのように豊かになっていくのかというイメージをどれくらい持って政策実行していくことです。そのため、「持続可能な県へ」というスローガンを掲げるならば、そうした点が総合計画の骨子案で見えてくることが大事ではないかと思っています。

□小松企画振興部次長

是非、先生と議論しながら進めていきたいと思っておりますので、我々にも知恵を貸していただければと思います。

○吉澤委員

「日本一持続可能な県」については、皆さんの意気込みだろうと理解しました。どういう状況が日本一なのか、持続可能かと言ったものを私たちにも伝えるように落とし込み、キャッチーな言葉に流されず、実態に沿ったものを7月3日の審議会で教えていただきたいと思います。

□小松企画振興部次長

どこまでできるか分かりませんが、議論の土台となるものを提示したいと思っております。

●辻部会長

専門部会のメンバーは、決まっているのでしょうか。

□小松企画振興部次長

現在、各部局から推薦いただいているところです。

●辻部会長

昨年度の審議会において、専門部会に入りたいという方がいらっしゃいましたが、そういう方に対して、どのようなスタンスで審議会全体を捉えているのか、お聞かせください。

□坂本政策監

そちらは、公募委員からの意見でしたが、昨年度同様に公募委員は部会に属するということではなく、審議会において幅広い観点から御意見をいただきたいと思っております。

●辻部会長

公募委員を募集する際に、そういった点も考慮していただくようお願いします。

○小泉委員

専門委員について、若く、意欲のある方を選定していただければと思います。選定には、部会長にも声をかけてもらえればありがたいと思います。

●辻部会長

今年度は、次期総合計画の策定に当たり、新たに専門委員を任命し、専門部会やワーキンググループで検討していくとのことでした。

新たな課題に対応し、当企画部会で所管することとなる防災や環境といった分野も、その分野の知見を持った専門委員の方々にお願いし、ワーキンググループという枠組みで審議いただくことは、非常に有意義なことだと思います。私からは、円滑な調査・審議に向け、早急に体制の構築をしていただくよう要望いたします。

よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ここで、一つ確認ですが、ワーキンググループには企画部会委員も参加するのでしょうか。

□小松企画振興部次長

現時点では、想定はしていません。ワーキンググループで議論した内容は、皆様に共有し御意見をいただくことになります。どうしても参加したいという方がいる場合は、ウェブでの参加など、ワーキンググループへの企画部会委員への御出席についても考えてまいります。

●辻部会長

皆様からも参加いただくのであれば、御発言いただければと思います。

7月に開催される第1回総合政策審議会以降、各専門部会において、次期総合計画への提言について検討をお願いすることになると思いますので、よろしくお願いします。

それでは、議事(3)その他ですが、この機会に他部会との情報や認識の共有が必要な案件、何か確認しておきたいことがあれば、お伺いします。何かございませんでしょうか。

●吉澤委員

観光・交流部会は、他の専門部会と接点のある内容を議論していますので、今年度進めていく上で、現状を御紹介します。

マスコミなどでインバウンドが非常に好調だという話がありますが、どうしても東京、大阪、京都に集中しております。もう一方で、日本人の旅行市場が停滞期に入っていくのではないかということが言われています。物価高等の影響もあり、実際、旅行控えが現場レベルで起きていると聞いています。

観光というと、どうしてもインバウンドに目がいきがちですが、消費額全体を捉えると、まだ日本人旅行の方が多く、日本人の旅行をどうやって維持し、伸ばしていくかというところが大切な観点になると思います。

秋田県は、少しまだ低調な状況にありますので、次期計画の中に、回復策としてどのようなものを盛り込んでいけるか、部会で思い切った大胆なものを議論していきたいと思っています。

また、観光は交通アクセスの影響を大きく受けますが、秋田県は空路が弱いと感じています。空港の活用というと、「チャーター便」というところに落としがちですが、定期路線の大切さがありますので、事例として交通関係などを集中的に議論していきたいと思っています。

●辻部会長

秋田空港は、台湾からチャーター便が週2便運行されていますが、これを定期便にしてほしいと要望をしています。

また、去年はクルーズ船の寄港が過去最高となりましたが、クルーズ船の乗客は、船内で宿泊し、1日だけ行動して次の場所へ行くというパターンとなっており、なかなか経済に影響を与えないという現状があります。

しかし、チャンスはたくさん転がっていますので、是非その点を生かした提言をしていただきたいと思います。

○石田委員

人づくりや人材といった部分は、多くの部会にまたがっているテーマだと思います。教育や女性活躍、雇用にも関係あるので、いかに連携して考えるか、一貫した方向性や指針を打ち出しながら、各分野の要求においてやれることをやっていくという考え方がすごく大事だと思います。そうしたことを、お話しする機会があれば良いと思います。

○伊藤委員

人口減少対策として、子育て世代のAターンを目指していくことと思いますが、戻ってきても仕事をする場所が必要ですし、そのためにも企業誘致に力を入れていかなければいけないです。併せて、子育て世代の人たちのことも考えていかなければいけないと思いますので、いろいろな分野の人たちと連携しながら進めていった方が良いと思います。

○小泉委員

個人的な感想になりますが、一つは空港の話です。秋田空港では、天候の関係で着陸できなかったという経験がありますが、他の空港には立派なレーダーがあって、同じ条件でも着陸できると聞きますので、そこも提案していただきたいと思います。

クルーズ船の乗客については、より楽しんでもらえるよう産業と連携して盛り上げていただきたいと思います。

去年も申し上げましたが、五城目町のまちづくりにはドクターも関わっている事例があるので、他の専門部会とも交流していきたいと思っています。

○吉澤委員

まず、就航率の問題について、空港の整備も伴いますが、現状を把握した上でどうなのかということは部会の中で話をしていきたいと思っています。

クルーズ船の乗客についても、市内をより楽しんでもらうような取組について部会で議論していきたいと思います。

観光・交流部会においては、人材育成など他の部会と関わるところが多いので、情報共有しながら進めていきたいと思っております。

○高橋委員

こういう議論の場で、県職員の皆さんの意見を聞いてみたいといつも思っています。今の話を聞いた時に、こういうことを思っているということを教示いただけたら、私たちの議論も目線を合わせられるのではないかと思います。

次に、移住を進めていく上で、一度、観光に来てもらうことも非常に大事だと思います。次もまた来たいという思いが、最終的に移住へつながったという方も多いと思います。吉澤先生にお尋ねしますが、国内の事例で、観光にマーケティング手法やデジタル技術を活用している取組があれば、総合計画を策定する際に参考になると思いますので、お話をお聞かせください。

○吉澤委員

具体的な観光地の地名は挙げにくいですが、観光が地域の接点になり、その後関係人口になり、最終的に移住へつながるということは、観光の領域からも非常にありがたいことだと思います。

例えば、昨今、インバウンドが多くオーバーツーリズムの問題がありますが、大分県の由布院温泉や熊本県の黒川温泉は、自分たちの地域をどうしたいかということをしっかり、いろいろな方々で議論しています。

サステナブルな指標というのはいくつもありますが、それは秋田県版も考えていけないといけませんし、ぶれない軸というものを今後作っていければと思っています。

私が所属する大学の学部は観光学とサステナビリティ学を併せて作られています。観光とサステナビリティは対立軸のように考えられてしまうこともあります。観光自体も持続可能と言われて久しく、多くの観光地はそこを目指しています。

●辻部会長

認識の共有というところで、皆様からお話をいただきましたので、是非、これを取り上げていただき、専門部会を開催いただければと思います。

県の皆さんとの協議というのは絶対必要なことだと思いますので、お互い話し合う機会を持っていいただければと思います。

●石田委員

県職員の皆さんの意見を聞きたいと思っております。形式的なものではなく、県職員の皆さんの考えをぶつけていただき、熱い議論を交わしていければと思っております。

□高島観光文化スポーツ部次長

観光誘客においては、宿泊数と消費額は非常に重要な観点だと考えております。例えば、台湾チャーター便で来た方が全て県内に宿泊しているわけではないため、県内での宿泊数を多くし、消費してもらうことや、県外の空港に来た方に秋田に宿泊してもらうことが大切になります。

クルーズ船についても、県内に滞在している際に消費してもらえるような取組を行っていきたいと思います。船の中で楽しむという方もいますが、秋田市の観光だけではなく、県内各地の観光も楽しんでもらえるよう促していく必要があります。

これらについては、専門部会にも資料等を出しながら議論を深めていきたいと考えております。

●辻部会長

昨年、トライアルでしたが、秋田商工会議所でクルーズ船のクルーの皆さんを観光に御案内しました。参加者は数名でしたが、クルーの皆さんから乗客の皆さんに情報が伝わり、さらに広がることを期待しています。クルーの皆さんには大変好評でしたので、今年も是非チャレンジしていきたいと思っております。様々な機会を観光に結び付けるような施策を商工会議所としてもやっていきますし、県の方にも是非お願いしたいと思っております。

では、事務局に進行をお返しいたします。

8 閉会

□坂本政策監

審議いただき、ありがとうございました。

今後のスケジュールについては、7月3日に第1回総合政策審議会と第1回専門部会を予定しております。詳細につきましては追って御連絡させていただきます。

それでは、以上をもちまして、「令和7年度秋田県総合政策審議会第1回企画部会」を閉会します。ありがとうございました。